木製小品のデザイン研究

研究員　楠畑裕也

I 目　　的

木材は素材として天然に育くまれた独特の利点を含んでいる。それは遠く人工の及ばない材そのものの美しさであり，人間の歴史の中で生活を根強く支えてくれた美しさであるといえる。そのすばらしさを現代の生活機構にもとづいたものとして引き出し，新しいイメージをもつ木製小品をデザインすることは可能であると考えられる。この意図にそつて従来にない独創的な製品を開発することがこの研究の目的である。

II 研究方法

1. タツチフオームの研究

木材の材質感を引き出すもつとも平易な方法の一つとして考えられることはブロック材に最小限の手を加え，その材にひそむタツチフオームの形と構成を知ることである。イス，タブ，屋久杉などの県産材を主材にして自由な形のタツチフオームを試みる。素材の良さを損わないよう，できるだけ機械の使用をさけ，小刀，彫刻刀，やすりなどで加工し，仕上げはサンドペーパーでていねいに磨き，表面は木材の生地が生かされるようワツクス又は透明ラツカー塗装をほどこして仕上げる。

※　タツチフオーム（TOUCH-FORM）
視覚と感触による感動の気持を楽しめる形態のこと。
"CREATIVE WOOD CRAFT"より

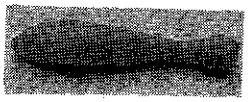
2. 製品試作

タツチフオームの研究の結果を応用して実用品をデザインする。この場合，量産化のため，機械加工できなければならないので，タツチフオームの意図が生かされるよう曲面加工しやすい旋盤やコピングマシンを多用できるよう設計する。

III タツチフオームの試作

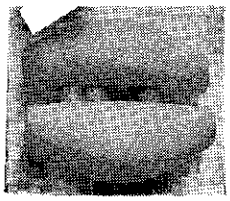
1. さかな（10×2×2cm）

イス材の小片から量感を主体とするタツチフオーム。



材質の硬さが形をひきしめてみせる。

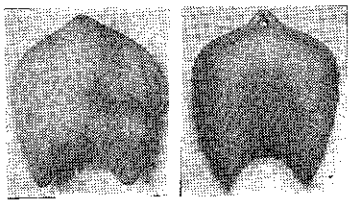
2. パターン－4



イス材2個を対称形に結合し，全体の形をタツチフオームにまとめた。形のゆるみが木目によつてかえつてすくわれている。（6×5×2cm）

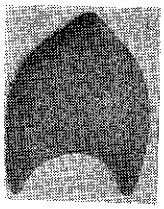
3. パターン—6・7（5×5×1cm）

ウォルナット材の同一形を左は中央に，右は馬蹄形に量感を集中してまとめたもの。



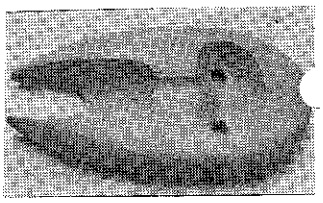
4. パターン—9（7×5×2cm）

タブ材をエンゼルフイッシュ形に切りその片面だけを曲面に削り木目の変化を確かめる。



5. パターン—13（12×5×1cm）

ウオルナット材による楕円形のタッチフォームに凹面をもたせることによつて形態の変貌を試みる。



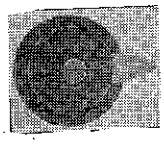
6. とり（15×8×8cm）

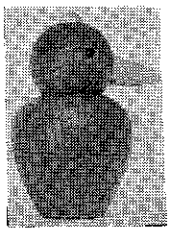
屋久杉の角材から鳥型のタッチフォームを求める。更に同材のもつこまやかな木目を生かすため，うずくり仕上げをほどこして自然な線模様の変化を強める。

Ⅳ 製品の試作

1. メモホルダー（6×6×10.5cm）

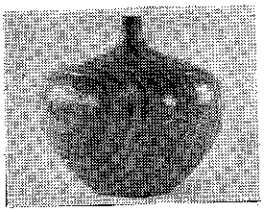
豊かな曲面と木の暖かさがねらい。押しボタンと開閉するくちばしは異種材を用いてコントラストの効果をもたす。





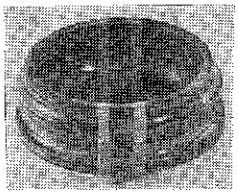
2. ふた付ボール（16×16×15cm）

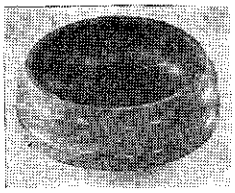
一木に現われる木目は自然の造形の偉大さと華麗さを生みだす。ロクロ加工による直線を含まぬ輪郭は年輪と調和し易い。



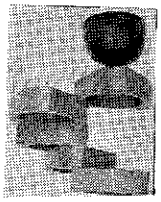
3. キャンデーボール（16×16×6.7cm）

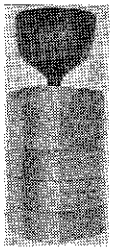
左はゼブラウッドとカエデの積層材，右ははりぎりの挽きもの。同一形ながら材質の相違によつてそれぞれ独自の感をもつ。





4. 小物入れ（9×9×21cm）



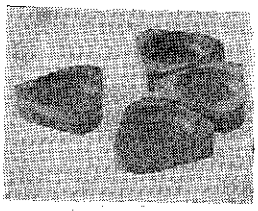


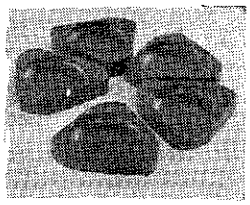
回転させて箱を引き出すというアイデアを三角形でまとめたもの。

手で触れる親しさが動く楽しさによつて倍加されるのも木材であることの特色であろう。

5. おつまみ入れ

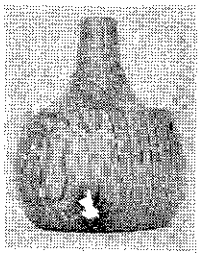
前記小物入れで得た三角の型から用途を変えたもの。組合せのパターンも各様にできる。





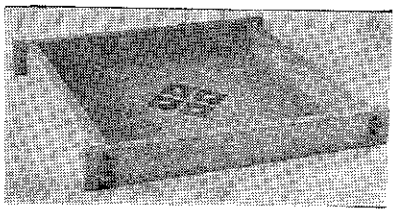
6. S・Pセット（7×7×8.5cm）

手にふれる食卓用品は感触と視覚において木材の質感が充分に生かされる。



7. オーバーナイト（30×30×4cm）

針葉樹の素直な木目を伝統的なイメージに結びつけ，中央に四ツ目のパターンを異種材で埋め木した。



V 結　　果

木材のすぐれた材質感を生かして，製品をデザインするという目的で，タッチフォームの研究からはじめたが，創意を大切にしなければならない製品の開発のために非常に効果的であつた。

視覚と感覚は人の気持をたえず創造においやるものであるといわれているが手を通して考え，目によつて判断することは設計の基本的態度として認識されなければならない。試作製品のうちメモホルダー，小物入れ，オーバーナイトは好評で，メモホルダーは本県発明工夫展において意匠部門の優秀賞を授与された。

8. 試作事項

木竹製品の品質向上，改善を図るため，新たなデザイン，材料，加工，技術をもとにして，優良木材工業製品・工芸品の見本試作を行い広く業界にＰＲする。

品名	内容	点数
木製家具	家具	234
木製品	文筥，色紙額，硯箱など	80
竹製品	花筒，盛皿	5
その他		23

9. 受託技術実地指導並に相談事項

実状に即して，材料，加工，経営などの指導を行い，県内木製品業界の質的向上を図ろうとするものである。

1. 実地指導

種別	件数
デザイン関係	25件
機械加工関係	13件
塗装関係	8件
加工技術関係	33件
木材乾燥関係	9件
材料	17件
接着	8件
その他	13件
計	120件